

平成21年産麦類の作付面積（全国）及び 収穫量（都府県）

－ 小麦の収穫量（都府県）は、前年産に比べて19%減少 －

【調査結果の概要】

4 麦（小麦、二条大麦、六条大麦及び裸麦）の作付面積及び収穫量

1 作付面積（全国）

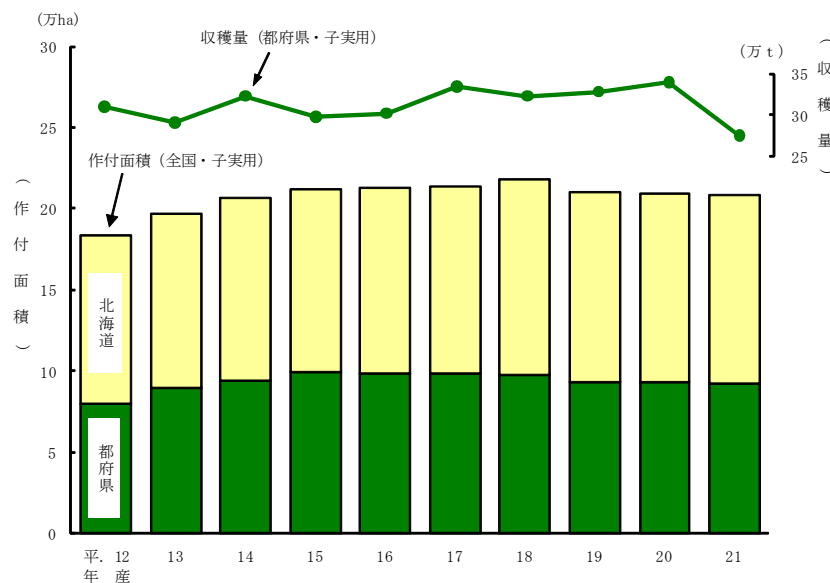
4 麦の作付面積（子実用）は26万6,200haで、前年産並みとなった。
このうち、小麦は20万8,300haで、前年産並みとなった。

2 収穫量（都府県）

4 麦の収穫量は44万7,300 tで、前年産に比べて10万1,700 t (19%) 減少した。
このうち、小麦は27万5,200 tで、前年産に比べて6万4,500 t (19%) 減少した。

これは、東海、九州地域を中心に、主に年明け以降の降雨により湿害が発生したこと等により、収穫量が前年産に比べ大幅に減少したためである。

図1 小麦の作付面積（全国・子実用）及び収穫量（都府県・子実用）の推移



- 本資料の数値は概数であり、今後の検査結果によっては、収穫量等に変更が生じることがあります。
- 本資料の収穫量は都府県であり、収穫期の遅い北海道を含めた全国の収穫量（概数）については、11月下旬の公表を予定しています。

この統計調査結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/toukei/sokuhou/data/syukaku_mugi_09/syukaku_mugi_09.xls 】

【関連するデータ、情報】

◎ 調査結果の利活用

- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産努力目標の策定及び目標達成に向けた生産指導・達成状況検証のための資料
- ・ 「水田・畑作経営所得安定対策（品目横断的経営安定対策）」の推進のための資料
- ・ 「農作物共済事業」における共済基準収量算定及び農業共済組合連合会当初評価高の審査・認定の資料等

◎ 関連データ

累年統計表

(1) 小麦（子実用）

区 分	作付面積 (ha)			10 a 当たり 収 量 (都府県)	収穫量 (都府県)
	全 国	北海道	都府県		
平成17年産	213 500	115 500	98 000	341	334 600
18	218 300	120 500	97 700	331	323 100
19	209 700	117 100	92 600	354	328 100
20	208 800	115 700	93 100	365	339 700
21 (概数)	208 300	116 300	92 000	299	275 200

(2) 二条大麦（子実用）

区 分	作付面積 (ha)			10 a 当たり 収 量 (都府県)	収穫量 (都府県)
	全 国	北海道	都府県		
平成17年産	34 800	2 320	32 500	359	116 700
18	34 100	2 330	31 800	344	109 300
19	34 500	2 300	32 200	374	120 300
20	35 400	2 180	33 200	413	137 100
21 (概数)	36 000	2 150	33 800	320	108 300

(3) 六条大麦（都府県・子実用） (4) 裸麦（都府県・子実用）

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収穫量	作付面積	10 a 当たり 収 量	収穫量
	ha	kg	t	ha	kg	t
平成17年産	15 500	303	47 000	4 540	267	12 100
18	15 300	278	42 500	4 420	303	13 400
19	15 700	332	52 100	4 020	356	14 300
20	16 900	331	56 000	4 350	370	16 100
21 (概数)	17 600	300	52 800	4 350	253	11 000

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：六条大麦及び裸麦については、北海道には作付けが無い。

【調査結果】

1 4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及び裸麦）の作付面積及び収穫量

(1) 作付面積（統計表P10参照）

全国の作付面積（子実用）は26万6,200haで、前年産並みとなった。

このうち、北海道は11万8,400ha、都府県は14万7,800haで、ともに前年産並みとなった。

(2) 収穫量（統計表P16参照）

都府県の収穫量は44万7,300tで、前年産に比べて10万1,700t（19%）減少した。

図2 4麦の作付面積（全国・子実用）及び収穫量（都府県・子実用）の推移

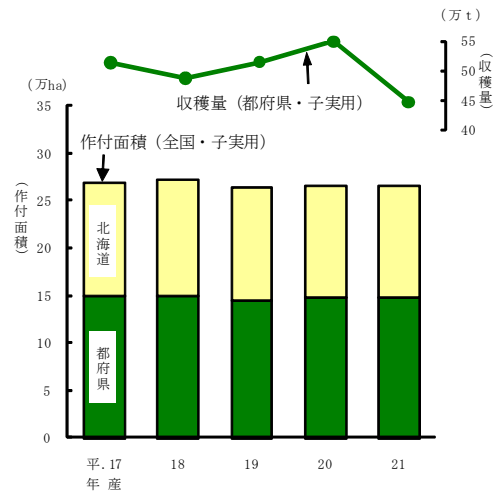


表1 平成21年産4麦の作付面積（全国・子実用）

区分	全 国			北 海 道			都 府 県		
	作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
4麦計	266 200	800	100	118 400	500	100	147 800	300	100
小麦	208 300	△ 500	100	116 300	600	101	92 000	△ 1 100	99
二条大麦	36 000	600	102	2 150	△ 30	99	33 800	600	102
六条大麦	17 600	700	104	-	-	-	17 600	700	104
裸麦	4 350	0	100	-	-	-	4 350	0	100

表2 平成21年産4麦の作付面積及び収穫量（都府県・子実用）

区分	作付面積	10 a 当たり収量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較					(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10a当たり平均収量対比	10a当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比		
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg
4麦計	147 800	...	447 300	300	100	...	△ 101 700	81
小麦	92 000	299	275 200	△ 1 100	99	82	△ 64 500	81	90	333
二条大麦	33 800	320	108 300	600	102	77	△ 28 800	79	90	354
六条大麦	17 600	300	52 800	700	104	91	△ 3 200	94	97	310
裸麦	4 350	253	11 000	0	100	68	△ 5 100	68	80	315

注：「(参考) 10 a 当たり平均収量対比」とは、10 a 当たり平均収量（過去7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10 a 当たり収量の比率である（以下の各統計表において同じ。）。

2 小 麦

(1) 作付面積（子実用）（統計表 P 10参照）

全国の作付面積は20万8,300haで、前年産並みとなった。

このうち、北海道は11万6,300haで、他作物からの転換があったことから前年産に比べて600ha（1%）増加した。

一方、都府県は9万2,000haで、九州において、は種期の降雨により作付けができなかったことや二条大麦への転換等があったことから前年産に比べて1,100ha（1%）減少した。

(2) 10 a 当たり収量（統計表 P 17参照）

都府県の10 a 当たり収量は299kgで、前年産を18%下回った。

これは、東海、九州地域を中心に、主に年明け以降の降雨により湿害が発生するなど生育が抑制されたこと等による。

なお、10 a 当たり平均収量対比は90%となった。

(3) 収穫量（統計表 P 17参照）

都府県の収穫量は27万5,200 t で、前年産に比べて6万4,500 t（19%）減少した。

これは、作付面積の減少に加え、10 a 当たり収量が前年産を大幅に下回ったためである。

図 3 小麦の作付面積（全国・子実用）及び収穫量（都府県・子実用）の推移

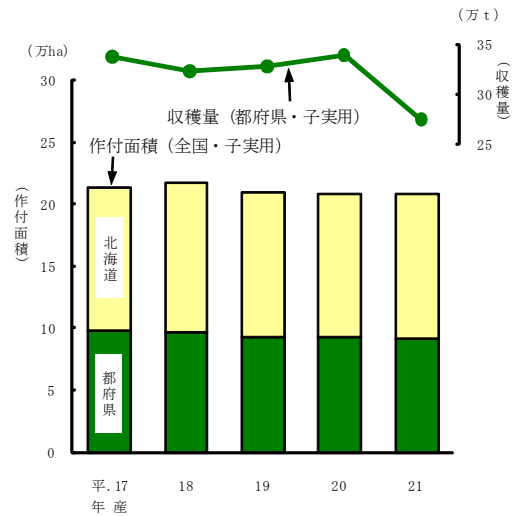


表 3 平成21年産小麦の作付面積（全国・子実用）及び収穫量（都府県・子実用）

区 分	作付面積	10 a 当たり収量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	%	kg	
全 国	208 300	△ 500	100	
北 海 道	116 300	600	101	
都 府 県	92 000	299	275 200	△ 1 100	99	82	△ 64 500	81	90	333	

表 4 平成21年産小麦の秋まき、春まき別作付面積（北海道・子実用）

区 分	作付面積	前 年 産 と の 比 較	
		対 差	対 比
小 麦	116 300	600	101
秋まき小麦	107 700	100	100
春まき小麦	8 510	330	104

3 二条大麦

(1) 作付面積（子実用）（統計表 P 10、11参照）

全国の作付面積は3万6,000haで、前年産に比べて600ha(2%)増加した。

このうち、都府県の作付面積は3万3,800haで、栃木県等においてビール用等の作付け拡大や、九州において焼酎用の需要が多く、小麦からの転換等があったことから、前年産に比べて600ha(2%)増加した。

(2) 10 a 当たり収量（統計表 P 18参照）

都府県の10 a 当たり収量は320kgで、前年産に比べ23%下回った。

これは、九州地域を中心に、主に年明け以降の降雨により湿害が発生するなど生育が抑制されたこと等による。

なお、10 a 当たり平均収量対比は90%となった。

(3) 収穫量（統計表 P 18参照）

都府県の収穫量は10万8,300 t で、前年産に比べて2万8,800 t (21%)減少した。

これは、作付面積は増加したものの、10 a 当たり収量が前年産を大幅に下回ったためである。

図 4 二条大麦の作付面積（全国・子実用）及び収穫量（都府県・子実用）の推移

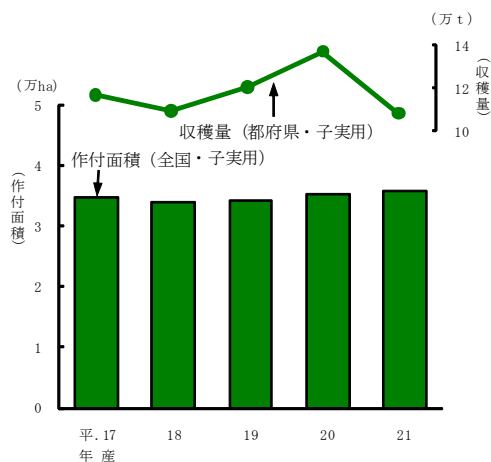


表 5 平成21年産二条大麦の作付面積（全国・子実用）及び収穫量（都府県・子実用）

区分	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10 a 当たり収量	収穫量		10a 当たり平均収量対比	10a 当たり平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比	%	kg	
全国	36 000	600	102
北海道	2 150	△ 30	99
都府県	33 800	320	108 300	600	102	77	△ 28 800	79	90	354	

4 六条大麦

(1) 作付面積（子実用）（統計表 P 11参照）

六条大麦の作付面積は1万7,600haで、北陸において国産大麦の需要が増加したこと等により、前年産に比べて700ha(4%)増加した。

(2) 10a 当たり収量（統計表 P 19参照）

10a 当たり収量は300kgで、前年産に比べて9%下回った。

これは、宮城県、茨城県等で降雨により湿害が発生するなど生育が抑制されたことに加え、福井県において登熟期の日照がやや少なく登熟が抑制されたこと等による。

なお、10a 当たり平均収量対比は97%となった。

(3) 収穫量（統計表 P 19参照）

収穫量は5万2,800tで、前年産に比べて3,200t(6%)減少した。

これは、作付面積は増加したものの、10a 当たり収量が前年産を下回ったためである。

図5 六条大麦の作付面積（全国・子実用）及び収穫量（都府県・子実用）の推移

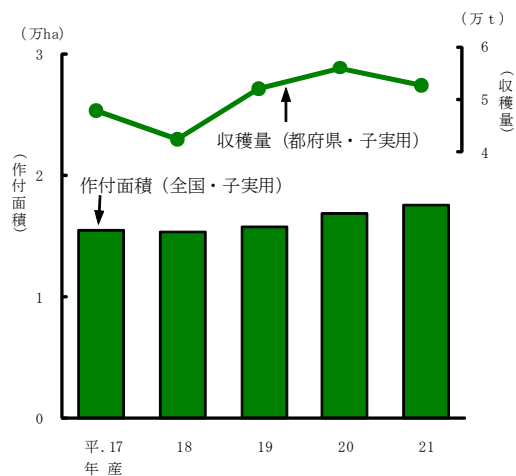


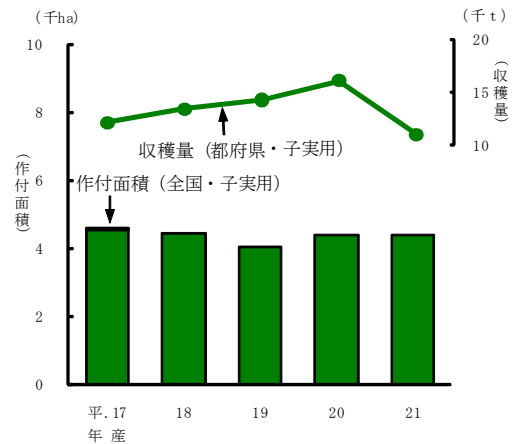
表6 平成21年産六条大麦の作付面積（全国・子実用）及び収穫量（都府県・子実用）

区分	作付面積	10a 当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a 当たり収量	収穫量		10a 当たり平均収量対比	10a 当たり平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比			
全国	17 600	300	52 800	700	104	91	△ 3 200	94	97	310	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
都府県	17 600	300	52 800	700	104	91	△ 3 200	94	97	310	

5 裸 麦

- (1) 作付面積（子実用）（統計表 P 11参照）
 裸麦の作付面積は4,350haで、前年産並みとなった。
- (2) 10 a 当たり収量（統計表 P 20参照）
 10 a 当たり収量は253kgで、前年産に比べて32%下回った。
 これは、四国、九州地域を中心に、降雨による発芽不良や湿害が発生するなど生育が抑制されたこと等による。
 なお、10 a 当たり平均収量対比は80%となった。

図 6 裸麦の作付面積（全国・子実用）及び収穫量（都府県・子実用）の推移



- (3) 収穫量（統計表 P 20参照）
 収穫量は1万1,000 tで、前年産に比べて5,100 t（32%）減少した。
 これは、10 a 当たり収量が前年産を大幅に下回ったためである。

表 7 平成21年産裸麦の作付面積（全国・子実用）及び収穫量（都府県・子実用）

区 分	作付面積	10 a 当たり収量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	%	kg	
全 国	4 350	253	11 000	0	100	68	△ 5 100	68	80	315	
北 海 道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
都 府 県	4 350	253	11 000	0	100	68	△ 5 100	68	80	315	